



外から見たAMED、中から見たAMED

令和7年12月16日

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)

理事長 中釜 斉

AMED着任までの主な経歴とAMED委員歴

外から見たAMED



【主な経歴】

1982年3月	東京大学医学部卒業
1990年4月	東京大学医学部附属病院 助手
1991年1月	米国マサチューセッツ工科大学 がん研究センター リサーチフェロー
1997年4月	国立がんセンター研究所 生化学部長
2007年4月	国立がんセンター研究所 副所長
2011年4月	国立がん研究センター 研究所長
2016年4月	国立がん研究センター 理事長・総長
2025年4月	日本医療研究開発機構 理事長（現在に至る）

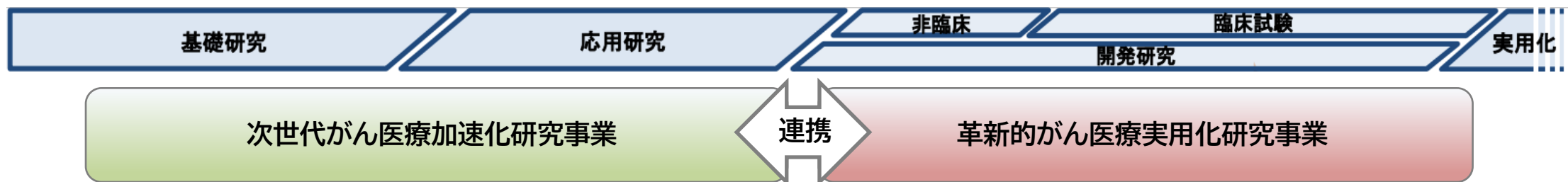


【主なAMED委員歴】

2024年4月～2025年3月	疾患領域コーディネーター【がん】
2017年4月～2025年3月	次世代がん医療創生研究事業 プログラムオフィサー（PO）、課題評価委員
2017年4月～2025年3月	革新的がん医療実用化研究事業 PO、課題評価委員
2022年10月～2025年3月	ムーンショット型研究開発事業 アドバイザー、課題評価委員 (評価委員は2022年1月から)
2023年8月～2025年3月	医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
2017年4月～2024年3月	先端国際共同研究推進プログラム(ASPIRE) 課題評価委員 先端的バイオ創薬等基盤技術開発事業* 課題評価委員

* 先端的バイオ創薬等基盤技術開発事業は2023年度に終了。
現在はスマートバイオ創薬等研究支援事業として進行している。

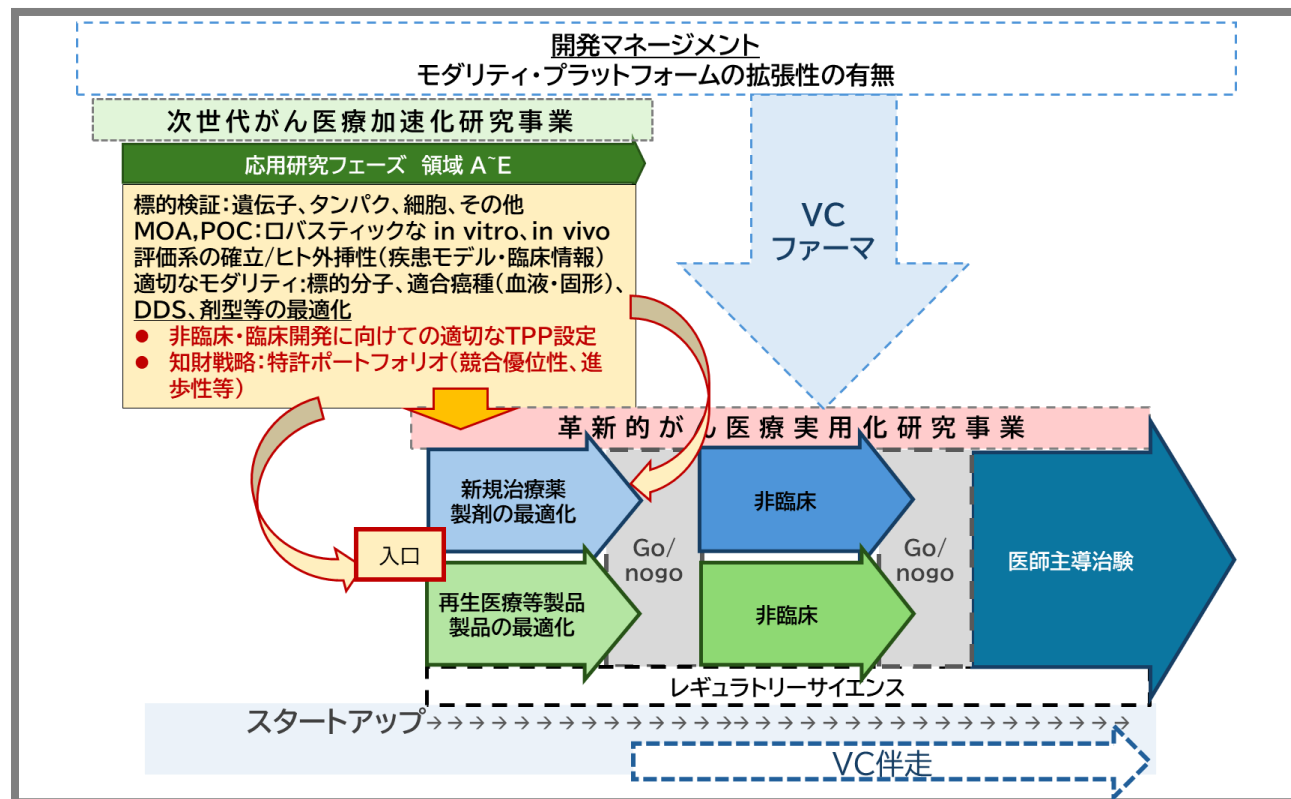
次世代がん事業および革新がん事業 統合マネジメントビジョン～価値創出の一本化～



初期の創薬研究から後期創薬開発につなげる開発戦略

- ・ 最適な開発モダリティ
- ・ 知財ポートフォリオを2事業で統合的にマネジメント

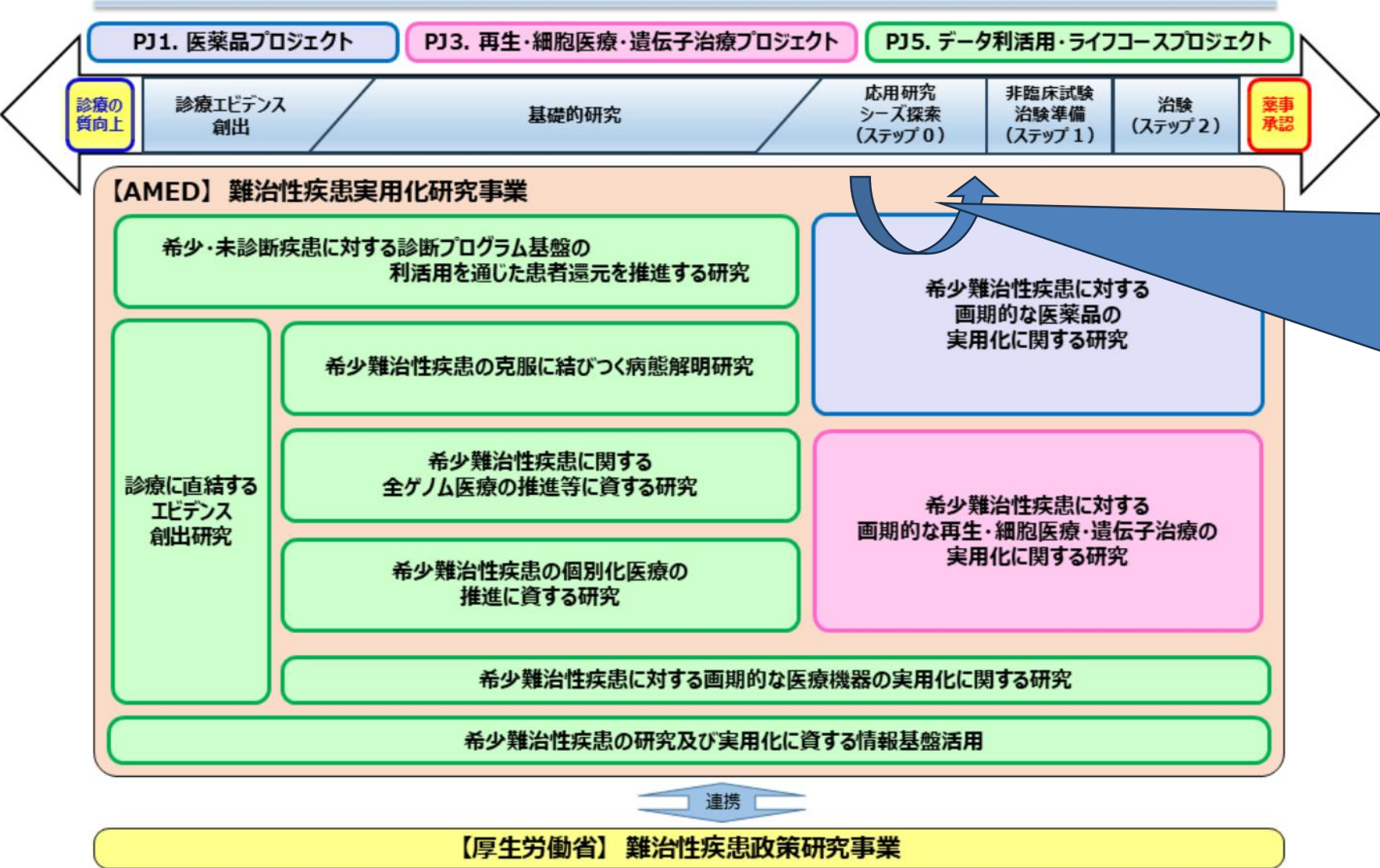
開発期間の短縮
選択と集中
成功確度の向上





難治性疾患実用化研究事業

令和7年4月1日時点





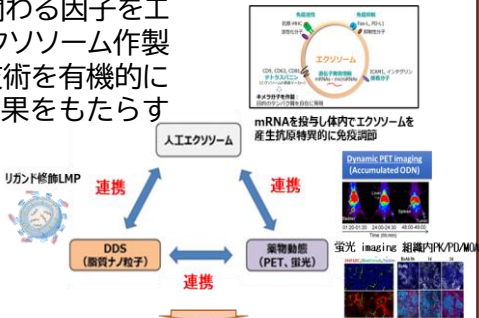
【令和4年度調整費を活用した事業間連携例】

創薬基盤研究推進事業 DDS評価研究チーム(PJ①、厚労)
× 先端的バイオ創薬等基盤技術開発事業(PJ①、文科)



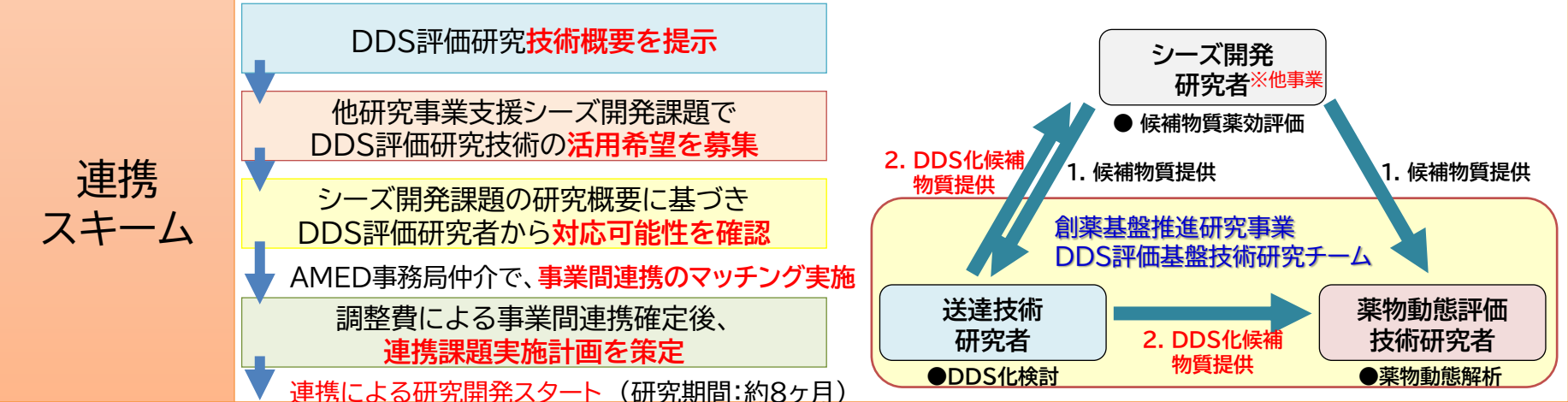
■ “先端バイオ事業×創薬基盤事業” による人工エクソソームを用いた革新的免疫制御法の開発

- mRNAの投与により免疫制御に関わる因子をエクソソーム上に発現させる人工エクソソーム作製技術に、送達技術・薬物動態評価技術を有機的に連携させることで、強い抗腫瘍効果をもたらすmRNA医薬の開発を進める。
- 従来の免疫制御法とは異なる革新的な免疫制御法による副作用の少ない治療法の開発を早期実現することで、アンメットメディカルニーズの高い膵がん、悪性リンパ腫などに対する新規治療薬となることが期待される。

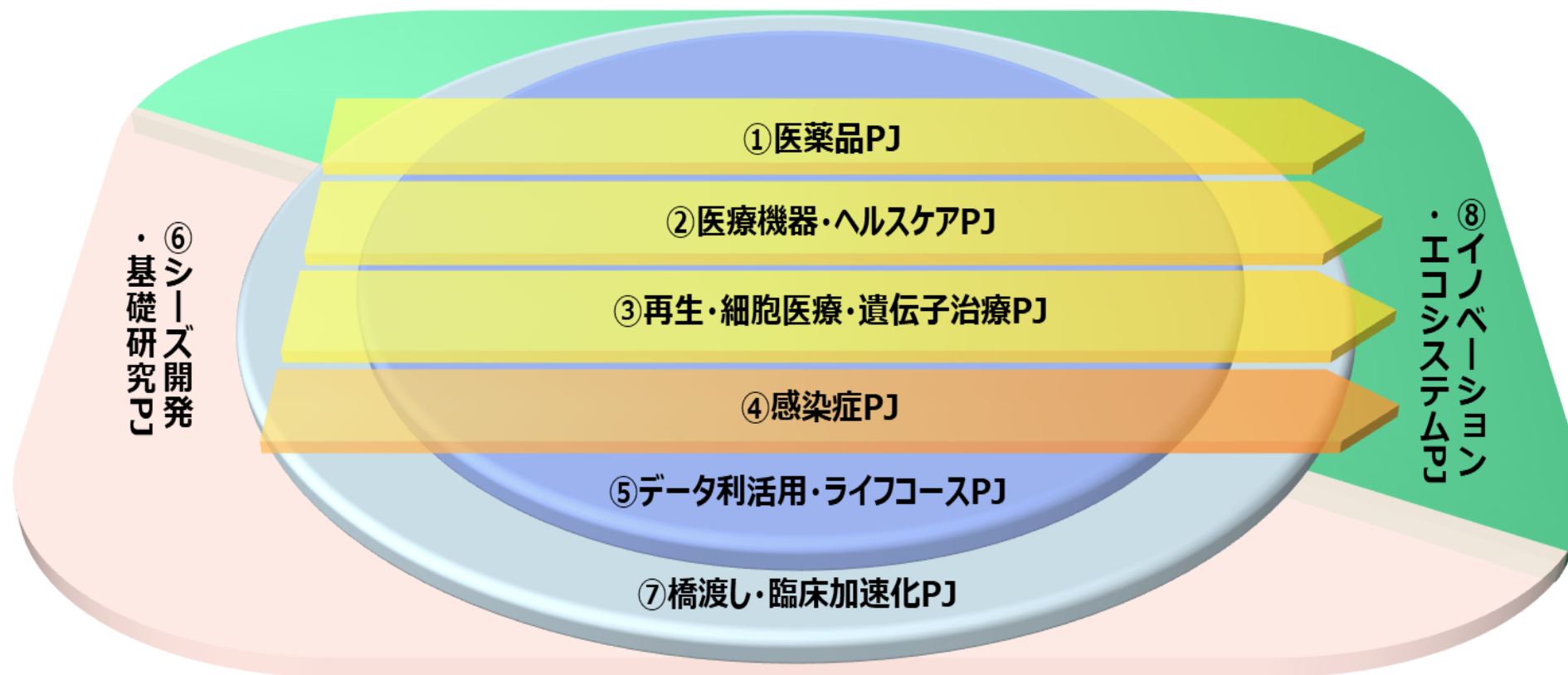


※文科省事業×厚労省事業の連携

出口テーマ	DDS評価研究技術のシーズ開発への応用展開
実施内容	他の研究事業で支援するシーズ開発課題と連携し、薬物送達の課題解決を図る



創薬基盤推進研究事業のDDS評価基盤技術研究チームは、シーズ開発研究者にDDS化候補物質を提供するなどの支援を通じて、課題解決を目指す連携スキームを構築。



<疾患領域に関連した研究開発>

上記の統合PJを横断し、以下の領域を設定。

- がん
- 難病・希少疾患
- ライフコース

日本医療研究開発機構（AMED）第3期の運営方針（令和7年7月）

～ 現場中心主義（研究現場や成果導出先との対話を基礎とする組織体制/風土の形成）の推進 ～

中から見たAMED

「**現場中心主義**」を徹底しつつ、以下の取組を通して、**研究開発とその環境整備及び人材育成等を牽引・後押し**することにより、健康・医療分野における**我が国の研究開発活動の活性化や底上げ、ひいては健康長寿社会の実現に向けて貢献**する。

事業間連携の取組の強化

研究開発事業及び課題の間をつなぎ、切れ目なく連続した支援を可能とする仕組み（ペアリング、マッチング）を構築・導入する。その際、研究開発の目利きをはじめ出口戦略の立案やそれら実施に向けた案件調整等に取り組むシンクタンクの機能と機動性を向上させた調整費を有効に活用し、研究支援を充実させていく。

研究開発の初期段階からの産学協創・企業導出

上記の研究支援の充実を図りつつ、初期段階からアカデミアと企業が協創して研究開発を進め、企業の視点による各シーズ・技術への支援等を実施することにより、最適な開発段階（基礎・応用研究から臨床研究まで）での企業導出を促進する。

社会実装・貢献へつながる成果創出のための基礎研究の充実

研究者の自由な発想と社会的な要請を踏まえた基礎研究を継続的・安定的に支援し、また、その基礎研究の成果と先端技術開発との融合を図ることにより、医薬品及び医療機器等の開発の源泉となるイノベーションの種を絶え間なく創出していく。

国際展開の推進

国際的に優れた研究成果の創出に向け、国際共同研究の戦略的・機動的な推進や海外ニーズを取り込んだ国際共同治験への参画により、日本人研究者の国際的なトップサークルへの参入を促進するとともに、次世代の優秀な研究者同士の交流や関係構築の強化をする。また、国内外の医薬品市場を見据えた創薬エコシステムを構築する。

医療分野の研究開発のDX

AIをはじめ、生成AIや量子技術等の先端技術を用いた医療分野の効果的・効率的な研究開発を促進する。そうした取組において基盤となるデータベースの構築・整備及び活用を見据えたデータマネジメントに取り組む。



ペアリング

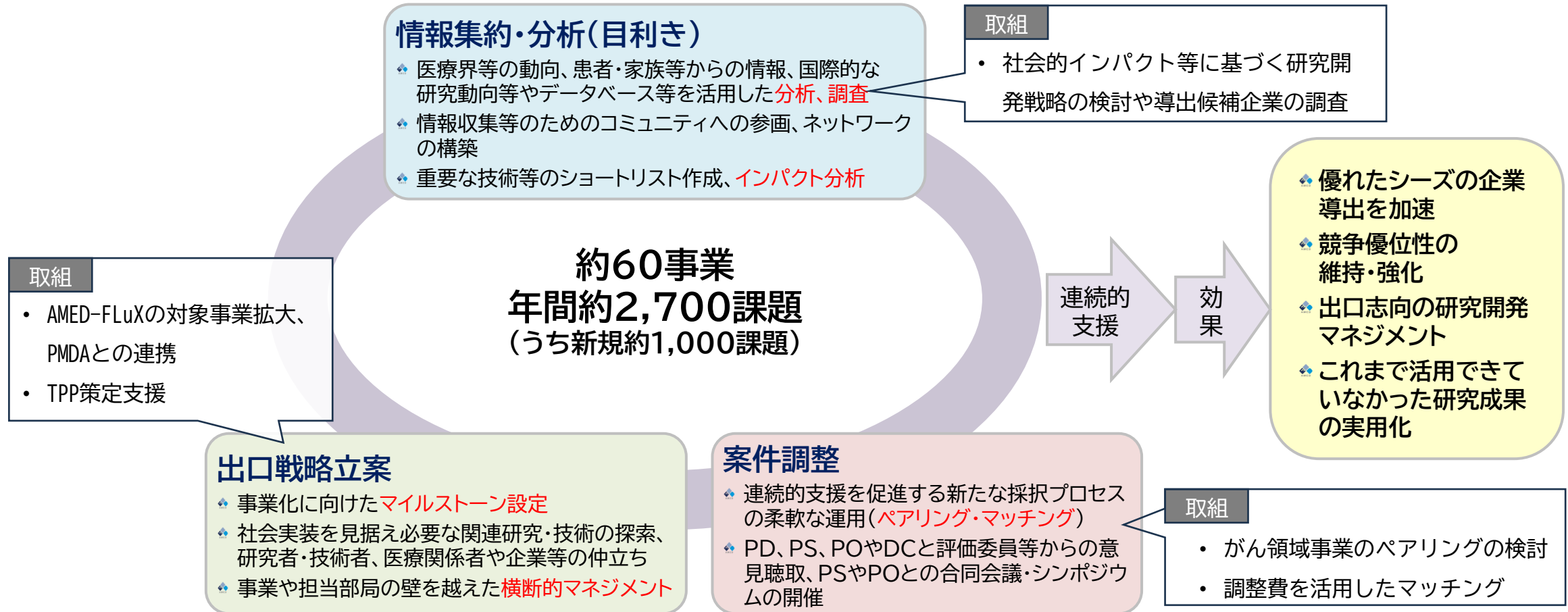
あらかじめ、ペアリング対象事業（先行事業と後継事業）を設定し、先行事業の採択時にペアリング対象課題として選定する。



マッチング

先行事業の特に優れた課題について、PSPOの推薦によりマッチング候補課題を選定する。





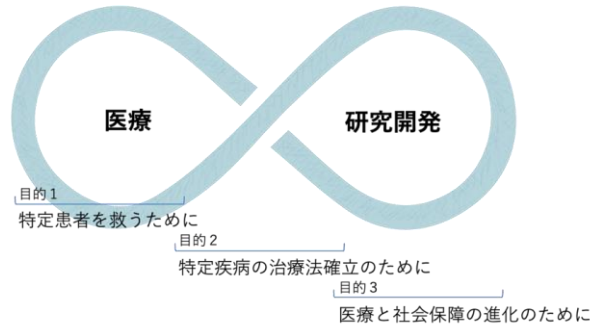


医療DXと医療研究DXの定義

医療DX、および医療研究DXについては、政府の「医療DX令和ビジョン2030」（厚生労働省 医政局）、内閣府 健康・医療戦略推進事務局が所管する「医療等情報の利活用の推進に関する検討会」、デジタル行財政改革会議における議論（2024～2025年）、およびEHDS Regulation案等を踏まえ、概ね以下のように整理される。

医療DX：
診療・ケアの質と効率を同時に高めることを目的に、（マイナンバーシステムの活用を通じ）標準型電子カルテの導入、全国医療情報プラットフォームの整備、オンライン資格確認、PHRとの連携等を実現、患者中心の医療情報連携と、医療機関間のデータ共有・業務効率化を実現する取組み。

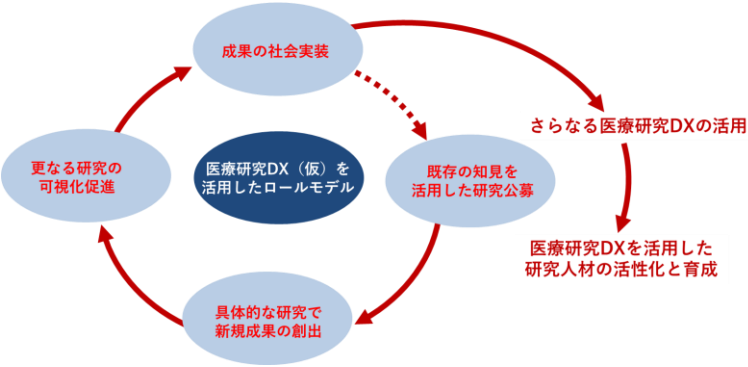
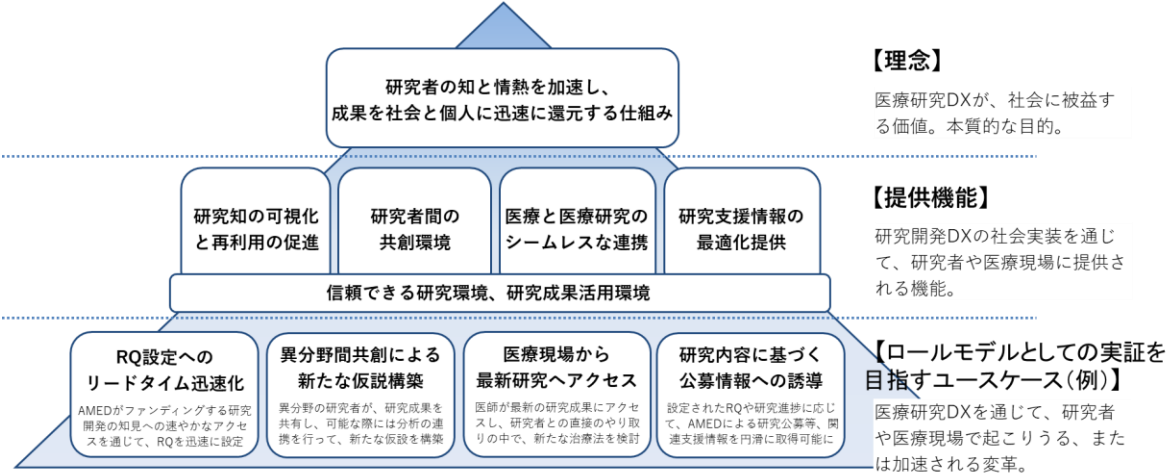
医療研究DX：
医療現場や関連するデータ基盤、および医療分野の研究開発から得られる知見やデータを、研究者が目的や文脈に応じて有効に活用できるようにするため、デジタル技術を活用し、制度・技術・運用面を再設計する枠組み。1次資料探索、プレリサーチ、RQ設定、研究者間連携、倫理管理、支援探索、成果公開、社会実装までを含む、「研究のためのエコシステム」が志向される。



独立した構造・基盤として推進されつつも、密接な連携関係を目指す

医療研究DXのVision：

健康・医療戦略推進の中核としてのAMEDが、医療研究の「知の循環構造」を支える社会インフラを創る



データ連携やシステム整備を進めるだけではなく、研究者が研究に集中できる環境を整えるための“寄り添うDX”を目指す

(平成26年6月10日 健康・医療戦略推進本部決定 令和3年4月6日、令和7年2月18日 一部改正)

3. 配分に係る考え方

(1) 配分方針

推進本部の決定により以下の考え方で配分する。配分に当たっては、推進本部の決定に基づき、内閣府の日本医療研究開発機構担当室（以下、「機構担当室」という。）が関係省庁の予算に推進費を移し替えた上で、関係省庁から補助金として機構に交付し、機構がその補助金を一体的に執行することとする。

① 現場の状況・ニーズに対応した予算配分（理事長裁量型経費）

機構担当室が機構の理事長の提案を受け、理事長と調整の上で配分対象事業及び配分額等の案を策定し、推進本部に諮るもの。

補助金

（ア）機構の理事長がプログラムディレクター（PD）等の意見を勘案して、年度の途中における研究開発の加速等の理由により、継続中の事業について追加的に研究開発費を配分することが研究開発の前倒しや研究開発内容の充実等に効果的と判断した事業について配分

（イ）機構の理事長がPD等の意見を勘案して、健康・医療戦略及び医療分野研究開発推進計画等における取組を一層推進する観点から、継続中の事業の公募時における特に優れた課題の採択数の増加や新たな研究課題の公募等が望ましいと判断した事業及び新たな事業について配分

運営費交付金

（ウ）機構の理事長が、PD等の意見を勘案して、優れたシーズの創出又は実用化の加速に向け、事業間をつないで連続的に支援すること又は企業への導出を支援することが有効と判断した研究開発課題を推進するための施策について配分

医療分野の研究開発関連の調整費の配分(令和7年度第1回)について

- 医療分野の研究開発関連の調整費のうち「理事長裁量型経費」については、現場の状況・ニーズに対応した予算配分をAMED理事長が提案するもの。
- 以下の方針に該当するもののうち、研究開発の新たな進展や新たな価値・創造のきっかけとなり得るものを重点的に支援。
(計127課題・2施策、147.6億円)

- 1 企業導出等の実用化に向けた研究開発の加速・充実
(40 [52] 課題)
- 2 基盤技術や拠点の活用等による課題間連携等の強化
(17 [20] 課題)
- 3 医療分野の発展を担う若手研究者の育成及び異分野人材の参入
(8 [11] 課題)
- 4 国際連携の強化及びその促進に資する国内体制・基盤の強化
(7 [8] 課題)
- 5 先進的医療実現のための最先端の研究開発・環境整備の一層の加速・充実
(55 [66] 課題)
- 6 事業間連携・企業導出を支援するための施策
(2施策)

【重点支援する課題(例)】

- 新規ツールを活用した連携による解析の高度化
シナプス病態のハイスループット解析体制構築により、統合失調症のシナプス病態解明を目指す。若手人材の研究開発の充実。

[]内は他の方針との重複計上を含めた課題数

医療分野の研究開発関連の調整費の配分(令和7年度第2回)について

- 医療分野の研究開発関連の調整費のうち「理事長裁量型経費」については、現場の状況・ニーズに対応した予算配分をAMED理事長が提案するもの。
- 以下の方針に該当するもののうち、研究開発の新たな進展や新たな価値・創造のきっかけとなり得るものを重点的に支援。
(計40課題・1施策、27.4億円)

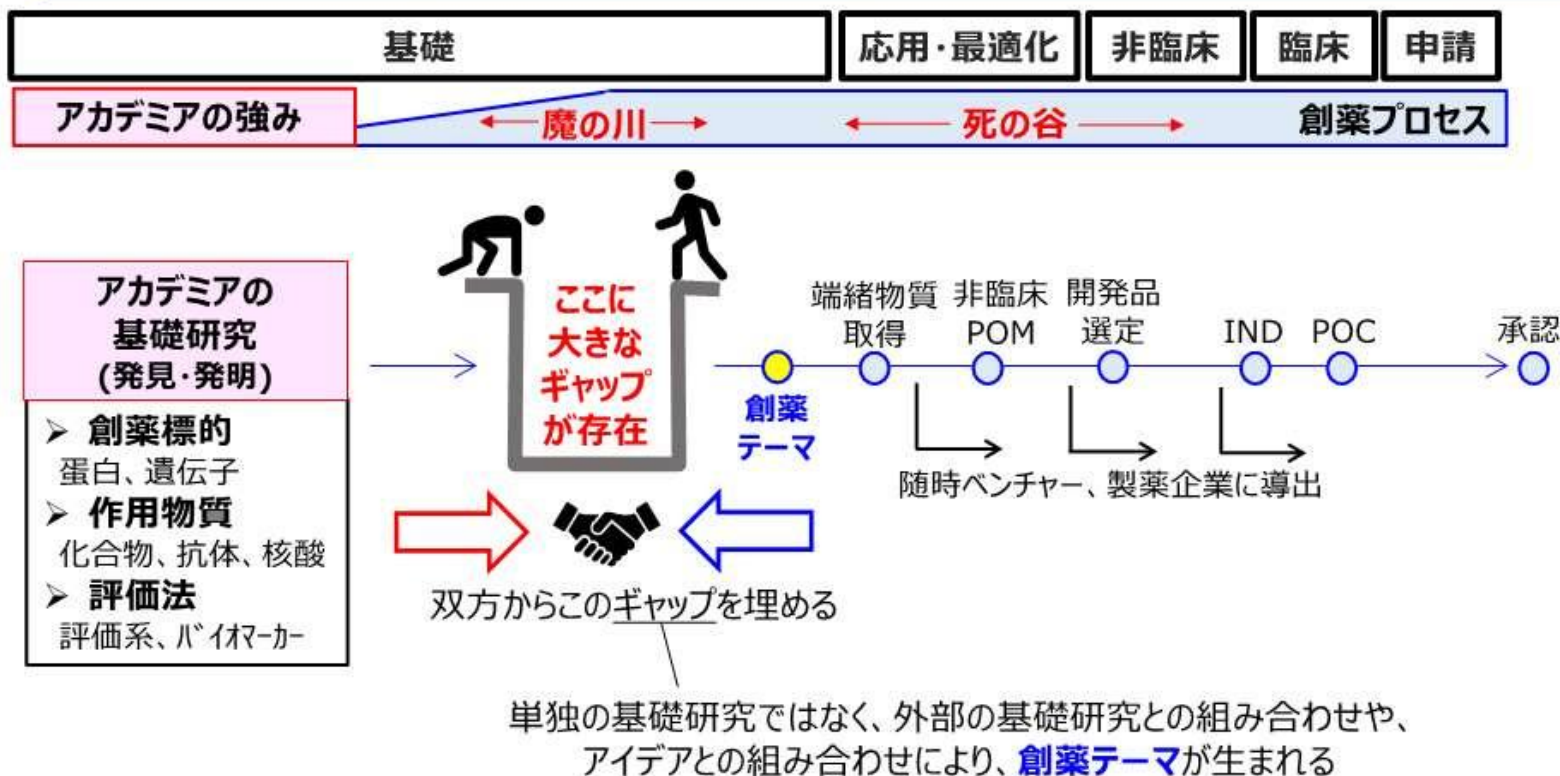
- 1 企業導出等の実用化に向けた研究開発の加速・充実
(20 [22] 課題)
- 2 基盤技術や拠点の活用等による課題間連携等の強化
(4 [5] 課題)
- 3 医療分野の発展を担う若手研究者の育成及び異分野人材の参入
(4 課題)
- 4 国際連携の強化及びその促進に資する国内体制・基盤の強化
(2 [6] 課題)
- 5 先進的医療実現のための最先端の研究開発・環境整備の一層の加速・充実
(10 [13] 課題)
- 6 事業間連携・企業導出を支援するための施策
(1 施策)

【重点支援する課題(例)】

- 企業導出に向けた研究開発の充実
頭蓋骨透明化技術の企業導出推進により、精神・神経疾患研究に広く貢献することが期待される。
- 若手人材の研究開発の充実
B型肝炎ウイルス（HBV）の複製に必須な、ウイルス因子と宿主因子との複合体の分子構造の解明により、B型肝炎に対する創薬開発基盤の確立と展開が期待される。

[]内は他の方針との重複計上を含めた課題数

アカデミアの基礎研究の実用化に向けて



- アカデミアと製薬企業が歩み寄り、魔の川のギャップを埋める
- そこから生まれた創薬テーマが死の谷を越える

AMED第3期の運営方針で掲げた「現場中心主義」の推進の一環として、革新的医療技術創出拠点の一つである慶應義塾大学を訪問した。当日は、拠点調査会議にPJ7の金田PDとともに出席し、研究の進捗状況について報告を受け、意見交換を行った。

さらに、世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)の私立大学唯一の拠点であるBio2Q(ヒト生物学-微生物叢-量子計算研究センター)と医化学研究室を視察。Bio2Qでは、最新鋭のクライオ透過電子顕微鏡(Cryo-TEM、KriosG4)を用いた細胞内構造やタンパク質、代謝物の高解像度解析の研究手法について説明を受けた。医化学研究室では、オルガノイドライブラリーや臨床との協働体制など、先進的な取り組みが紹介された。



『革新的医療技術創出拠点』では、PD、PS、POと共にサイトビジットや全体会議等を実施し、文部科学省の「橋渡し研究支援機関」と厚生労働省の「臨床研究中核病院」を一体的に運用することにより、切れ目なく、基礎から実用化、臨床応用までを一貫的に開発支援するプロジェクトとして運用している。

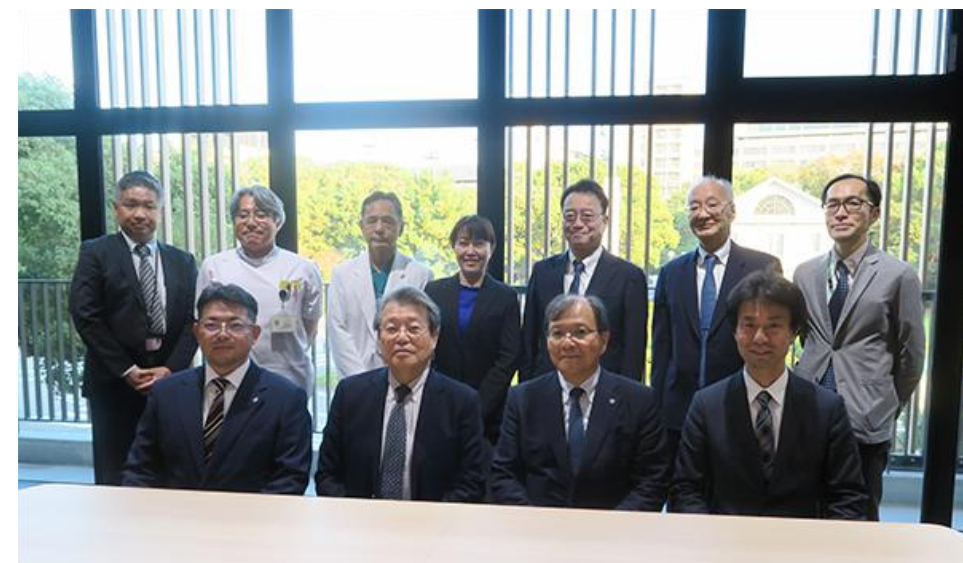
令和7年11月5～6日 九州大学を訪問 革新的医療技術創出拠点を視察

中から見たAMED



AMED第3期の運営方針で掲げた「現場中心主義」の推進の一環として、革新的医療技術創出拠点の一つである九州大学を訪問した。同大における先端技術研究開発やAMED支援研究、さらには、産学連携支援施設などを視察、関係者と意見交換を行った。

九州大学の石橋総長ら経営幹部と面談し、地域一体の取組や自治体との連携、今後の展望について意見交換を行った。伊都キャンパスでは、有機光エレクトロニクス研究やカイコを活用した感染症研究、タンパク質生産技術とスタートアップの取組を視察。大学100%子会社「九大OIP株式会社」では、産学連携の仕組みやベンチャー支援の課題について議論した。馬出キャンパスでは、空間オミクス解析、久山町研究による認知症コホート、国産クライオ電顕を用いた創薬構造解析の先端技術を確認。各分野で特徴や今後の展開を共有し、研究と産業の連携強化に向けた意見交換を行った。



『**革新的医療技術創出拠点**』では、PD、PS、POと共にサイトビジットや全体会議等を実施し、文部科学省の「橋渡し研究支援機関」と厚生労働省の「臨床研究中核病院」を一体的に運用することにより、切れ目なく、基礎から実用化、臨床応用までを一貫的に開発支援するプロジェクトとして運用している。

令和7年11月28日 北海道大学を訪問 革新的医療技術創出拠点を視察

中から見たAMED



北海道大学での、臨床研究中核病院と橋渡し研究支援機関の連携である「医療・ヘルスサイエンス研究開発機構(HELIOS)」の取組、AMEDが推進する医学系研究支援プログラム「ひと・AI/DX・しくみの三位一体整備による次世代AI活用・データ駆動・情報循環型医学研究の戦略的推進」の取組、世界トップレベル研究開発拠点形成事業の取組、先端医療技術教育研究開発センターでのカダバースタディーに関する取組、ムーンショット型研究開発目標7(微小炎症制御プロジェクト)の取組について視察、意見交換を行った。そのほか、寶金総長との対談、医学部内のホールでの特別講演会での講演を行った。



AMED第3期の運営方針で掲げた「国際展開の推進」の基盤作りとして、海外の国・機関のトップレベルとの意見交換及び関係構築を積極的に実施。相手国と現在の協力関係を振り返り、双方の関心事項を共有の上、相互に強みを活かした連携の可能性を議論。国際共同研究などの連携に結び付け、国際的に優れた研究成果の創出や研究者の国際的なトップサークルへの参入を促進する。



 タイ科学・研究・イノベーション推進機構(TSRI)
タイ生命科学研究所(TCELS) (4月)



資金配分機関の長の会合(HIROs)(6月)



 スイス教育・研究・イノベーション庁長官来訪(9月)



 フィンランド保健大臣(6月)



 欧州委員会研究総局 Cancer Mission(6月)



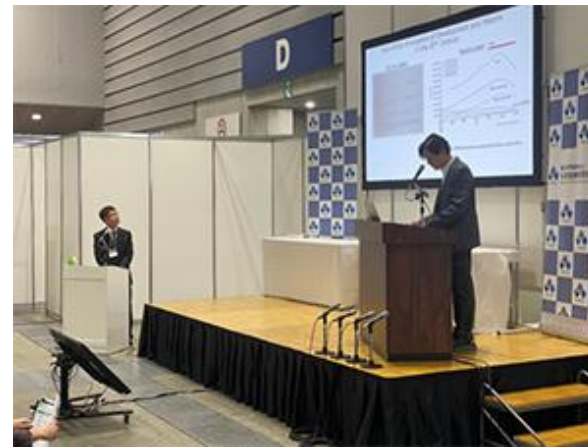
 フランス国立保健医学研究所
(INSERM)理事長(10月)

令和7年8月21日 第9回アフリカ開発会議(TICAD9)サイドイベント「アフリカにおけるAMEDの取り組み」を開催

中から見たAMED



AMEDはアフリカを舞台とした研究開発を推進し、地球規模の保健課題解決に取り組んでいる。横浜市で開催された第9回アフリカ開発会議(TICAD9)のサイドイベント「アフリカにおけるAMEDの取り組み」を主催し、文部科学省あべ大臣と中釜理事長が挨拶。国際共同研究の成果紹介や「切れ目のない支援と連携強化」をテーマにしたパネル討議が行われた。



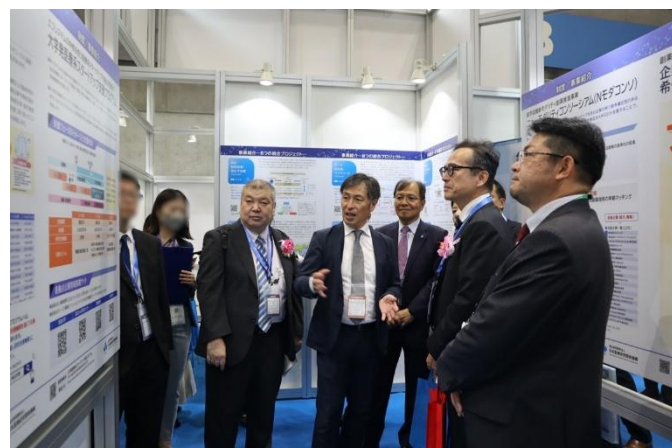
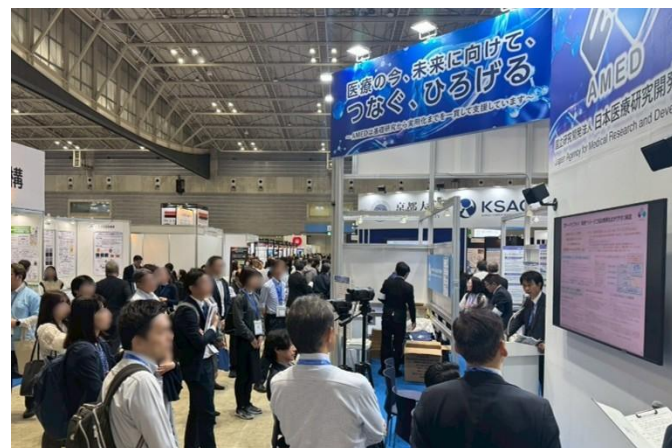
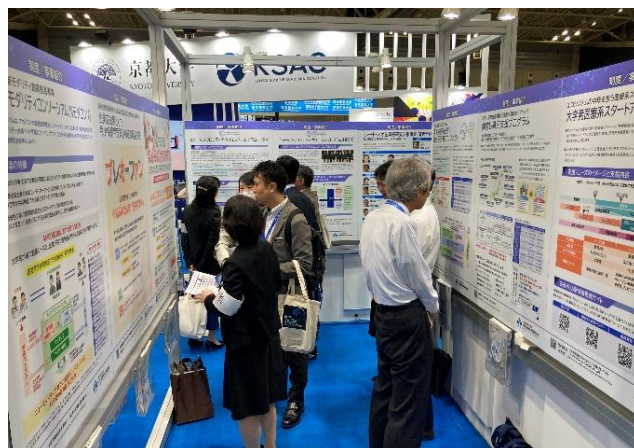
「AMEDにおけるアフリカ研究課題の成果紹介」に関する発表と「切れ目のない連続的な支援および連携強化」に関するパネルディスカッションが行われた

令和7年10月8～10日 BioJapan2025への出展

中から見たAMED



- 「BioJapan」は、展示会・セミナー・パートナーリングプログラムを通じてバイオ産業のオープンイノベーションを加速させることを目的としたアジア最大のイベント。AMED設立当初の2015年から継続的に出展している。



日時	10月8日(水)～10日(金) 10時～17時
場所	パシフィコ横浜
会場総来場者数 (事務局発表)	8日(水):9,004名(前回比137%) 9日(木):7,671名(前回比104%) 10日(金):5,492名(前回比137%) 合計:22,167名(前回比 123%)

【主な企画内容】

- ・パネル展示
⇒各事業やAMED概要について紹介するパネルの展示
- ・ブース内セミナー
⇒調整役や推進役の講演のほか、各事業の紹介等のセミナーを実施。

★立ち見で見えないほど、大盛況！

令和7年10月8日(BioJapanにて) 第3回AMEDシーズアクセラレーションピッチ 開催報告

中から見たAMED



■日 時：令和7年10月8日（水） 13:00～17:00
（ピッチ2時間＋交流会1時間の合計3時間程度）

■場 所：パシフィコ横浜
JHVSメインステージ
【同時開催】

- ・BioJapan
- ・再生医療JAPAN
- ・health TECH JAPAN



■参加者

- 登壇者：12者（AMED推薦11者、MEDISO推薦1者）
- 評価者：AMED 創薬ベンチャーエコシステム強化事業 認定VC 28社*
- 省庁関係：内閣府 内山健康・医療戦略局長など5名
経済産業省 廣瀬バイオ課長など5名
- その他：稲垣PD（イノベーション・エコシステムプロジェクト）、
島崎PO（大学発医療系スタートアップ支援プログラム）をはじめ、
AMED各事業PS、POが参加
※立見客（AMED職員含む）込で常時150名前後が視聴

*（モデレータ含む）

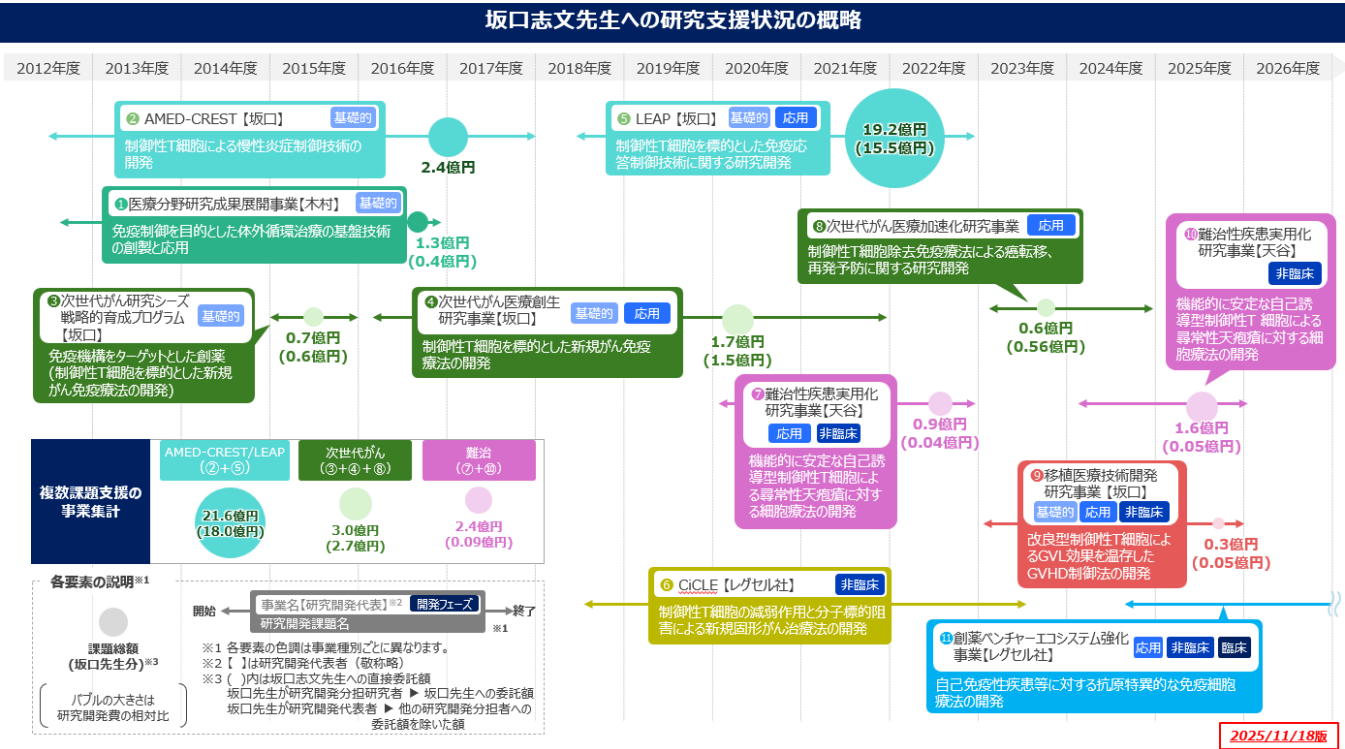
令和7年10月31日 ノーベル生理学・医学賞の受賞が決定した大阪大学特任教授・坂口志文博士が、AMEDを訪問

中から見たAMED



坂口志文先生は、中釜理事長、濱口センター長との鼎談で、研究の原点や社会とのつながり、がん領域における今後の展望について語りました。さらに、若手研究者へのメッセージや研究ポジションの安定性、スタートアップ支援の重要性にも触れ、基礎から臨床への橋渡しを担うAMEDへの期待を示した。

また、坂口先生はAMED職員に向けて、基礎研究を長期的に支えるAMEDの役割への深い感謝を表した。AMEDは、資金配分にとどまらず、日本の医療研究文化を育み、未来を築く「要」とであると強調し、その誇りを胸に、研究者とともに科学と医療の発展を支える使命を果たしてほしい、と呼びかけた。



坂口先生、中釜理事長、濱口センター長 鼎談



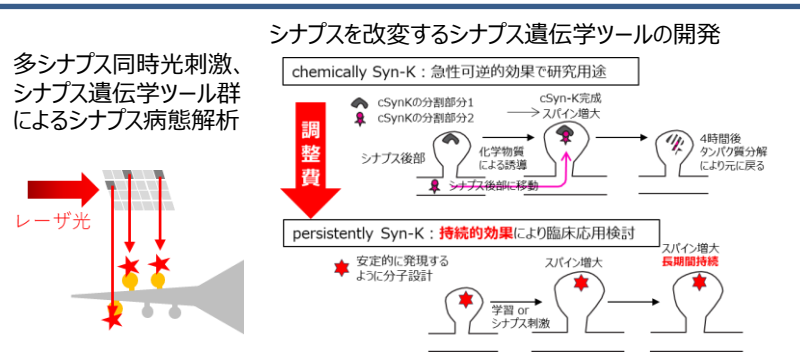
<理事長推し調整費(各論①)参考> 医療分野の研究開発関連の調整費の配分について

■ 統合失調症の病態解明に係る研究開発

令和7年度第1回

充実等

- 統合失調症は思春期から青年期に発症する主要な精神疾患であり、特にシナプス病態の解明と創薬候補の同定が喫緊の課題である。
- 調整費により、シナプス病態解明の高度化及び、シナプス病態と認知機能障害を結びつけるシナプス遺伝学ツール群開発の充実と病態解析への応用を行い、統合失調症の病態メカニズムにせまる。
- シナプス病態解析とシナプス遺伝学ツール群開発との連携により、機能や局在異常を示すシナプスタンパク質を見つけ出すことで新規治療薬候補となることが期待される。



■ 頭蓋骨透明化技術による生体マウス脳の高時間解像度イメージングデータの取得

令和7年度第2回

充実等

- 従来のopen skull法による生体脳マウスのライブイメージングは、頭蓋骨及び脳境界領域を剥離してしまう非生理的条件であることが課題となっていた。今般、頭蓋骨を透明化するSeeThrough法を確立し、頭蓋骨と脳境界領域を保持したまま生体脳ライブイメージングデータの取得が可能となったことから、SeeThrough法の幅広い解析への応用可能性を示し、企業導出を推進する。
- 調整費により、SeeThrough法が、脳境界領域を保持したまま、蛍光プローブによる高時間解像度データ取得に適していることを示す。具体的には、脳境界領域の解析が重要と考えられている多発性硬化症モデルマウスにおいて、蛍光プローブを用いて血流や脳脊髄液流等の高時間解像度のデータ取得を行う。
- これにより、SeeThrough法の幅広い解析への応用可能性を示し、企業への導出を促進する。また、多発性硬化症等の病態解明に貢献することが期待される。

頭蓋骨透明化技術「SeeThrough」

- 頭蓋骨を取らずに脳実質や脳境界領域を観察できる画期的な独自技術（特許出願済）
- 低侵襲かつ高精度なイメージングを実現

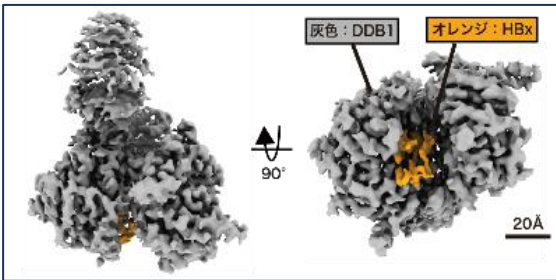


■ HBx機能阻害低分子化合物の同定

令和7年度第2回

充実等

- HBVは、感染後核内にcccDNA (covalently closed circular DNA) として残存し、現行のHBV治療では除去が困難で根治に至らない。本課題では、このcccDNA転写活性化に必須である、ウイルス因子のXタンパク質 (HBx) と宿主因子DDB1との複合体の立体構造を解明し、創薬標的となる疎水性ポケットの存在を見出した。
- 調整費により、上記創薬標的に対するin silico/in vitroスクリーニングを行い、HBx機能阻害低分子化合物の創出を推進する。
- これにより、HBx機能阻害作用による、B型肝炎の根治を目指す薬剤の開発が期待される。



▲ウイルス因子HBx (オレンジ) と宿主因子DDB1 (灰色) との複合体の立体構造。この相互作用がHBV複製に必須であることから、この相互作用を阻害する低分子化合物を創出する。

<理事長推し調整費(各論②)参考> 医療分野の研究開発関連の調整費の配分について

【重点支援(例)】

膵臓がんに対する新規核酸医薬の非臨床試験を目指した 事業間連携の支援

令和7年度第2回

事業間連携

<現状>

- 「次世代がん医療加速化研究事業」において、膵臓がんに対する新規核酸化合物の評価・最適化の後、開発候補化合物を同定し、膵臓がんに対する核酸医薬の非臨床試験に向けた準備を行っている。

<事業間連携の概要>

- 膵臓がん等で高発現し、がん細胞の維持・増殖に必須の長鎖非翻訳RNAであるTaurine upregulated gene1(TUG1)を標的とするアンチセンス核酸化合物(TUG1-ASO)に、化合物の安定性を向上させる技術を組み合わせたと、想定を超える極めて高い血中残存量を示し、TUG1-ASOの大幅な能力向上の可能性が見いだされた。
- この結果をもとに、調整費にて、今回の膵臓がん治療に最適化するTUG1-ASOの構造的改善を早急に図り、最終候補化合物同定、非臨床試験に向けた化合物の合成等を進める。
- この成果により、令和9年度から「革新的がん医療実用化研究事業」において非臨床試験を開始するとともに、令和12年度から医師主導治験に進めることが期待できる。

<事業間連携に向けた工程>



心不全に対する遺伝子治療薬の臨床試験加速に向けた 事業間連携の支援

令和7年度第2回

事業間連携

<現状>

- 「ゲノム研究を創薬等の出口に繋げる研究開発プログラム」において、心不全に対する遺伝子治療薬の開発のため、心筋細胞におけるレア・コモンバリエーションの機能的評価よりヒト心不全の病態解明を進め、遺伝子変異と化合物の関係性をシングルセルレベルで理解し、原因となる分子病態に応じたきめ細かい治療法の開発を行っている。

<事業間連携の概要>

- これまで得られた成果（心不全に対する遺伝子治療薬及び治療法等）を社会実装するため、ベンチャーキャピタル（VC）と連携して臨床試験を開始する準備を進めている。
- 臨床試験を実施するため、調整費にて、大動物（非ヒト霊長類）を用いた非臨床POCの取得が重要との指摘を受けたことから、大動物での安全性試験を実施する。
- この成果により、令和9年度から「創業ベンチャーエコシステム強化事業」に採択されることで、大型投資の獲得により遺伝子治療薬の臨床試験（phase1/2）を加速でき、前倒して製販企業（導出先の目処あり）におけるphase3試験及び承認申請の開始が期待できる。

<事業間連携に向けた工程>



ヒトのSFTS迅速診断キットの開発加速化による 企業導出に向けた支援

令和7年度第2回

企業導出

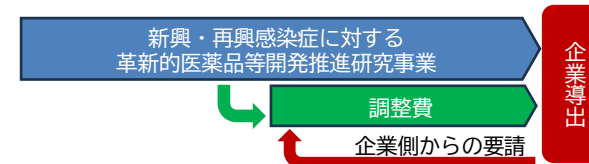
<現状>

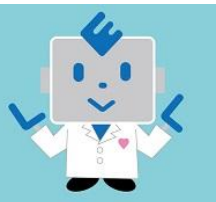
- 「新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」において、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に対するより効果的な治療法の開発のため、既存薬とは作用機序の異なる有望な治療薬候補や複数薬剤の組み合わせによる治療効果を動物モデルでの検証と、臨床で使用するSFTSの簡便な診断法がないことから、迅速診断キットの研究開発を行っている。

<企業導出の概要>

- 日本国内におけるSFTSの年間患者数が、これまでで最も多かった一昨年の同じ時期を上回り、患者急増が予想されるとともに、ヒト-ヒト感染事例だけでなく、複数の獣-ヒト感染事例が報告され、感染リスクが急増している。
- 本年5月に、迅速診断キット（イムノクロマト試作キット）の作成に成功したため、調整費にて、メーカーにおいて試作キットを増産し、長崎大学・宮崎大学及び2地衛研と連携してヒト検体やネコ検体を用いてSFTSウイルスの感度、特異度などを評価し、SFTS迅速診断キットの臨床有用性を示す。
- この成果により、1年前倒してプロトタイプを完成させ、特許出願、企業への導出、企業による薬事申請の後押しが期待できる。

<企業導出に向けた工程>





○AMEDウェブサイト <https://www.amed.go.jp/index.html>

AMEDに関する基本情報の紹介の他、事業紹介、公募情報、イベントなど、さまざまな情報を掲載しています
ぜひ、ご覧ください！



○AMED事業 公募カレンダー <https://www.amed.go.jp/content/000117274.xlsx>

AMED事業の公募予定や目途などをわかりやすくまとめた「公募カレンダー」を掲載、更新しています。
ぜひ、ご活用ください！



○公式Xアカウント AMED 日本医療研究開発機構

公募やイベントなどの情報を投稿しています。ぜひ、フォローお願いします！

>> アカウント (日本語) https://x.com/AMED_officialJP
(英 語) https://x.com/AMED_officialGL



○公式YouTubeチャンネル AMEDチャンネル

シンポジウムの動画などを紹介しています。ぜひ、チャンネル登録をお願いします！

>> チャンネル <https://www.youtube.com/@amed>



○メール配信サービス

公募やイベント開催に関する情報を、電子メールにてご希望の皆様にお送りしています。
ぜひ、配信登録をお願いします！

>> 登録フォーム <https://www.amed.go.jp/pr/mailmagazine.html>



○広報ウェブマガジン「AMED Pickup」

AMEDでどのような医療研究開発を推進しているかなど、わかりやすくご紹介していきます！
ぜひ、フォローをお願いします！

>> サイト <https://amed-gov.note.jp/>

